

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202320		
法人名	有限会社 グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームやみね (1階・2階共通)		
所在地	長崎県佐世保市矢峰町82-1		
自己評価作成日	平成24年6月12日	評価結果市町村受理日	平成24年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・私共のグループホームは高台の静かな住宅街に位置し、敷地内には庭園があり、四季折々の木々や草花が楽しめる環境です。</li> <li>・母体が医療法人であり医療全般について安心・安全に過ごせる。</li> <li>・家族との関わりを大切にし気楽に訪問できる。</li> <li>・残存能力の維持・向上に努め作業療法士によるリハビリや生活支援も行なっている。</li> <li>・ユニット間が自由に往来し交流できる。</li> <li>・地域の行事や清掃活動に積極的に参加し事業所自体が地域の住民として交流できるように努めている。</li> <li>・介護実習者を受け入れ育成に努めている。</li> </ul>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年7月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な住宅街の中にある。敷地内には庭園があり、季節の木や花を見たり触れたりできる環境を維持しており、利用者が我が家のように暮らせるホームである。開設当初からの地域に根差すホームを目指しており、8年目を迎え日常的な交流の他に公民館祭りや運動会の参加等、地域交流の盛んなホームになっている。地域住民参加の避難訓練では、高齢な認知症利用者の避難誘導の難しさを全員が感じ、対応策を話しあっている。ホームの課題であった2階からの避難階段の増築計画も進行している。日常の介護記録は会話や行動、支援の要点が記録され、第三者が見ても理解しやすく記されている。介護計画の実践状況及びモニタリング、評価に職員が関わることで、職員の介護者としての意識が高まっている。更に全職員で利用者を理解する取り組みを行っており重度化・看取り事例も数件あるなど、本人本位の支援に努めている。ホームは利用者の笑顔が絶えない支援に意欲的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は日々目の付く所に掲示し毎朝の申し送り、基本理念、職員の心得、スタッフの目標を唱和し常に意識した個別ケア実施に向けて努力している。	開設時作成の理念「一人ひとりの人格尊重、住み慣れた地域で安心して過ごせる支援、笑顔が絶えない毎日」を職員は理解し、個別ケアの具体化の基礎にしている。利用者が自分らしい生活を実現できるように職員は意識の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に入っており町内の回覧板で行事や祭り等その他の連絡を受けている。地域の祭りには入居者の作品を展示させていただき地元の人々と交流を図る機会を持てるようにしている。	自治会に加入し、職員と利用者は町内の一員として地域清掃やスポーツ活動等に参加している。ホーム夏祭りやクリスマス会等には住民と交流している。民生委員によるホーム清掃など奉仕活動の受け入れや認知症の勉強会などを実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花の季節等にはポスターを貼り、見物の声掛けをしている。年間行事のうち夏、冬の2回、家族や近所の方々を招待し利用者の様子や日々の生活を見ていただきホームを理解していただくように働きかけている。地区民生委員の依頼で奉仕作業の受け入れとその後の研修会で親睦を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しておりホームの活動状況や利用者の状況などを定期的に報告している。会議での意見や要望、アドバイスは職員会議で話し合いサービス向上に活かす努力をしている。	奇数月に規定のメンバーで開催され、ホームや利用者の状況、行事の報告等があり、活発な意見が出されている。これまでの課題であった2階の非常口増設の決定は、関係者の大きな安心に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、市役所の担当者との信頼関係を深め情報共有を行い、いつでも相談・協力できるようにしている。	市開催の研修会には職員が交代で受講しており、認定手続きや相談時に市担当者と情報交換を行っている。介護保険課などの担当課とは常に連携を取り協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束マニュアルを理解し、また身体拘束防止への研修参加を促している。研修後は全体会議を行い現在の状況と照らし合わせて皆で取り組んでいる。	玄関の施錠は夜間のみで、利用者は自由に庭園に入出りでき、見守り支援で対応している。万一の場合は、隣近所の協力体制もある。日頃より言葉使いにも注意し、研修を通して常に身体拘束ゼロ作戦に取り組み、ケアの実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、毎年、研修会で学ぶ機会を持ち高齢者虐待防止マニュアルや社会の情報をもとに全体会議で話し合い、高齢者の人格・尊厳の大切さを職員が理解し見過ごすことがないように注意を払い防止に努めている。		

グループホームやみね(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解を深めるよう努力している。必要時には管理者にアドバイスを受けながら利用者の支援に結び付けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の重要事項説明書をもとに、利用者の意見や家族の意向・不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解納得を得た上で、手続きを行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中や家族会ホームのイベントを通じて利用者や家族の思い、意見、要望を聴くようにしている。また玄関先に意見箱を設置している。聞き取った内容は職員会議で話し合いホーム便りで結果を報告し向上につなげている。推進会議では意見を交換し、運営に反映させている。	訪問時や電話で、意見や要望を気軽に話してもらえるよう気をつけている。年1回、家族会を設けている。要望で日常の写真をもっと増やしてとの希望から、日頃より写真撮影している。但し、家族会では報告が主流であり、意見提案が遠慮がちである。	家族からの忌憚のない意見は、事業所の質の向上に繋がる。そのために家族会での進行方法、及び不参加家族からの意見汲み上げ方法、意見に対するホームからの報告方法など再検討されることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングではスタッフ一人ひとりが発言できる場を作っている。必要時には、代表者や管理者が個別に面談を行いホーム運営の発展に努めている。	ミーティングでは、職員は意見を活発に出しており、シフト交換の効率的な実施方法、非常口の増設、カラーコピー機の購入等運営に反映させている。勤務体制も職員の生活状況に合わせ、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者の意見や実情を見て職員の勤務状況を把握している。各自が、向上心を持って働けるよう永年表彰を行なっている。資格取得時には資格手当など、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせての指導や外部への研修の参加を進めトレーニングからステップアップへとつなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は同業者との勉強会等の参加が出来る時間を確保し、同業者間の親睦を深め視野を広げサービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		

グループホームやみね(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学や電話での問い合わせの段階から積極的に応じ来所しやすい雰囲気作りに努めている。相談から利用に至るまで本人や家族が困っていることや不安要望などを良く傾聴し共感して信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのサービスの利用状況や困りごとなどの経緯について家族の立場に立って話を聞いて不安をしっかり受け止めて信頼関係を築くことができる様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、今、必要としている支援を把握した上で、当ホームのサービス内容や支援方法の説明を行なっている。また他にもグループホーム以外のサービスなどの説明をし必要としている支援に応じた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と利用者、家族と職員との会話や利用者との毎日の関わりの中で「その人を知る」ことに努めできる能力を活かし無理な事は支援し協力して支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の思いをしっかり受け止め、絆を大切に、利用者の様子や職員の思いを伝え、家族と職員の信頼関係を深め、本人を支えていくための協力関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握した上で、それぞれと協力して、その関係を断ち切らないような支援を心がけている	利用者の知人や近所の人々の訪問もあり、家族の協力で帰宅、外泊、外食、墓参り等出かけている。また馴染みの美容室や商店に同行支援し、これまでの馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の人間関係を把握し、利用者が孤立せずに共に暮らしを楽しめるように、それぞれに見合ったレクリエーションの提供や食事の準備、後片付け、掃除や洗濯等で、お互いが協力して仲良く生活できる様に、気を配り支援している		

グループホームやみね(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後にも電話や手紙で安否を尋ねたりお見舞いに伺ったり、家族の相談に応じたりなど、継続的なお付き合いを心がけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表及び日常生活の中から本人の願いや好み家族との生活状況等を把握しその人らしい暮らしの支援に向け職員全体で検討し支援している	入居時に家族が記入したアセスメント表をもとに、日常生活の中から得た、利用者の思いや好みを書き込み、面会ノートや入浴時の会話の中からも思いを把握している。表現が難しい場合は、表情、声、身振り等で思いを汲むように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や入居後の本人や家族からの情報、前施設からの情報収集等から一人ひとりの生活歴や暮らしぶり、生活環境をアセスメントし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りで情報を共有しその日の現状を職員全体で把握しその人に応じた支援をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向は日頃の関わりの中で聞き取り、話し合い、それぞれの意見や希望を職員全体で検討し意見やアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成している	短期3ヶ月、長期6ヶ月で介護計画を見直している。利用者、家族の希望を日頃より聞き、毎月カンファレンス、モニタリング、日常記録、及び担当職員による評価結果を基にサービス担当者会議にて、現状に即した介護計画を立てている。但し評価結果が家族と共有できていない。	利用者、家族の要望を反映している介護計画の評価結果を共有することで、より一層の利用者本位の支援の検討に繋がることを期待できる。検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は誰が見ても分かるような書き方をしており、ケアの実践・結果・気づき・工夫などは特記欄に再掲して職員間で情報を共有しながらケアに努め介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望にあわせた受診介助、美容室、買い物支援など柔軟な支援に取り組んでいる。OTを月2回依頼しリハビリに取り組んでいる。PTによるリハビリも計画中である。地域のボランティアによるレクリエーション等も取り入れている		

グループホームやみね(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが地域で安心して暮らし続けられるよう、家族の代表、民生委員の協力を得ながら、地域の行事に参加して、各個人の力を発揮し安全で豊かな暮らしを楽しむことができる支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先し受診介助をしている。それぞれの、かかりつけ医と情報を共有し適切な医療が受けられるよう支援している	以前からのかかりつけ医へは職員が受診支援を行っており、家族が同行する場合もある。受診結果は介護記録へ記入し、家族へ報告している。協力医療機関とは緊急時の連携も確認できており、体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者である看護師に毎日のバイタルチェックや気づきを報告し、適切な処置や受診介助を行なっている。また週1回の訪問看護師と連携をとり支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、受け持ちの看護師らにより状況を共有できる様にしている。退院の際には看護師やソーシャルワーカーと話し合い、安心して帰宅できるような環境づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に終末期の看取りについて本人と家族に意向を聞き、事前に確認書を作成している。重度化した場合は、改めて家族、主治医、管理者、看護師、介護士等と話し合い家族の思いを尊重し、ホームでできる事を十分に説明し治療及び介護支援に取り組んでいる	入居時に終末期・看取りに関するホーム指針の説明、意見を聞き同意を得ている。状況に応じ医師、家族を含め場を設け、意思確認と同意を得ている。看取り事例もあり、職員は看取り時の支援方法について実技の他、家族へのメンタル面でのケアについて勉強会を開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え職員は講習会や研修に参加し、内部研修を行い、すべての職員が対応できるように努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間や夜間と状況に応じた避難訓練を年に2回実施している。また、地域の方々にも訓練に参加して頂くなど、協力体制を築いている。また、災害時の避難場所の確認及び非常食の確保も行っている。	年2回、消防署員と共に、初期消火訓練、総合避難訓練を行っている。地域住民も参加し、互いの見守りや役割を確認している。自然災害時の対応も職員は周知しており、避難場所、持ち出しリストなど確認している。	

グループホームやみね(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の尊厳を重視し、自尊心、人格、個性を尊重して、優しく静かに敬語で話しかけるように心がけている。また記録や個人情報第3者に漏れないように配慮している	トイレ誘導時の声かけや、トイレ介助時の職員の行動など、利用者の羞恥心への配慮は徹底している。前回の外部評価結果から職員の守秘義務の意義についてミーティングや職員会議にて周知し改善している。個人情報に関する書類は事務所にて管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で会話を大切に本人の思いや希望が素直に表に出せる様に、ゆとりのある態度で介護にあたっている。意思表示が難しい人には表情や反応で汲み取り、職員間で話し合い本人の希望に近づくように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常業務を優先することなく、一人ひとりのペースや希望を重視し、その人らしい充実した生活が送れるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、美容師の来訪にて、その人に合ったカットの声かけ支援や、行きつけの美容院への対応を行なっている。 いつも身綺麗に過ごしていただけるよう気配りを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を味わえる料理を工夫し、新鮮な食材で好みを考慮しながらメニュー作りをしている。食器の片付けやテーブル拭き等は職員の声かけで一緒に楽しくしている。月1回のおやつ作りは楽しみとなっている。	調理専門職員が調理を担当している。嗜好調査を基準に食べたい献立を尋ね取り入れたり、食事の感想を聞き改善に繋げたりと工夫している。職員は介助をしながら一緒に食事をしている。また、月に一度おやつ作りは利用者の楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量が、ひと目で分かるように一覧表にしている。一人ひとりの状態に合わせたメニューや食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には、一人ひとりの今までの習慣に合った方法で、うがいや歯磨きの口腔ケアをして頂いている。介助が必要な方には職員が支援し、口腔ケアの清潔保持に努めている		

グループホームやみね(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立した利用者以外は、排泄チェックシートや表情、仕草で把握し、誘導や声かけで排泄の失敗を減らし、自立に向けた支援を行なっている	排泄チェックシートを利用している。リハビリパンツから布パンツへの移行事例や昼と夜で使用パンツを検討したりしながら、トイレでの座位排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレを利用している。職員も自立に向けた支援方法を個別に検討し実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維、野菜を多く使い、また、おやつには寒天類を提供したり、自然排便ができる様に献立や飲水に力を入れている。毎日、体操や機能訓練などその人に応じた運動を行い予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ユニットの入浴日を決めているが、毎日でもシャワー浴ができる様に支援している。順番や時間は利用者の希望にできるだけ合わせるようにしている。また、入浴されない人には清拭や足浴等で対応している	各ユニット交互に入浴日設定され、最低週2回の入浴誘導である。状況に応じシャワー浴をしている。拒否時は声かけや職員を替えるなど工夫しているが、強制はしない。全員が入浴を楽しめるよう同性介助や2人対応、希望の湯温や菖蒲湯など工夫している。また、入浴は職員との会話を楽しむ時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを掴み日中は離床と昼寝を組み合わせ 体操やレクリエーション等で身体を動かして気持ちよく安眠できるように支援している。昼夜逆転の時には穏やかに過ごせる様に見守り、徐々に平常に戻る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の使用している薬剤情報等をまとめて一冊のノートにして見やすい場所に設置し、内容は全職員が把握できるようにしている。状態変化が見られる際、主治医や看護師と連携を図り対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を把握し、楽しみや張り合い、喜びのある日々を過ごせる様に支援している。また、得意分野で力を発揮できるように支援している(片付け、掃除、洗濯物干し・畳み、編み物、パズル、花札、トランプ、カラオケ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調などを考慮し、近所の公園や神社への散歩、ホーム駐車場、買い物同行などをしている。歩行不安定な人には、ドライブで外の空気を吸えるようにしている。家族にも受診や外食、買い物、美容院等本人の思いを、お伝えし、協力を頂いている	天候や体調に応じて、ホーム周辺や地域神社まで散歩や回覧板届けなどしている。個別の希望やホーム備品の買い物に同行している。気分転換にドライブ外出をし、車椅子利用者も支援している。花見や遠出ドライブを定期的に企画し、温泉などは家族へ声をかけ参加も多い。	

グループホームやみね(1階・2階共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方はお小遣い程度もって頂いており、無理な人はホーム事務所預かりとして、必要なものは買い物同行し、いつでも購入できるようにしている。買い物同行時の支払いは、なるべく本人ができる様に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を持っている人もおり、自由に使えるように支援している。事務所でも本人希望時、即対応できるようにしている。手紙は、届いたら本人にすぐ渡すようにしている。希望時、便箋、ハガキ、切手などの提供、投函の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はバリアフリーで、手すりは動きやすい位置に取り付けている。カーテンを2重にし、音や光を調節している。においや空気よどみがないように随時換気扇を作動させ、常に換気をしている。テレビ等の音量は、さりげなく調節し、不快感を与えない様にしている。季節の花を飾ったり、絵や手作りカレンダーを毎月張り替え、居心地よく過ごせる様に工夫している	広いリビングのソファや食卓など調度類は利用が自立歩行しやすいように配置されている。窓からは自然光が程よく入り、季節の庭園を眺めることができる。24時間換気、温度調整により快適に保たれている。清掃はトイレのみ利用者が使用しない夜間に行い、他の空間は換気を兼ねて朝から行っており衛生面に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ、新聞、ソファや椅子、テーブルをホールや廊下に置き、一人でも、また気の合う者同士でも、思い思いに自由に過ごしていただける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの品を持ち込んでもらい、自宅で過ごすのと同じような環境の中で、居心地よく過ごしていただけるように、個別性のある居室作りを心がけている	利用者の馴染みの物は自由に持ち込むことができる。テレビや冷蔵庫、テーブルや仏壇など各利用者が落ち着いて過ごせるように配置されている。毎朝職員が掃除をし、換気や室温にも配慮し、快適な居室作りを支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、それぞれの目線にあった位置に目印となるものや、個別性のある表札を掲げている。共有スペースは、広々とした空間とし、トイレ等は、一人でも行けるように、矢印をつけ安全に生活を送れる様に工夫している		